

# Racing Topics

## ★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

### ●レモンポップがチャンピオンズカップ連覇

12月1日(日)に行われたチャンピオンズカップ(G I)では、レモンポップ(牡6歳/美浦・田中博康厩舎)が昨年に続いて勝利し、連覇を達成しました。同レース連覇は2010年・2011年のトランセン(当時はジャパンカップダートとして実施)以来で史上2頭目。また2着と3着にも昨年と同じウィルソンテソーロ、ドゥラエレーデが入り、1～3着馬が前年と同一だったのは、J・G Iでは2016年・2017年中山大障害(1着オジュウチョウサン、2着アップトゥデート、3着ルペールノエル)の例があるものの、平地G Iではグレード制が導入された1984年以降、史上初のこととなります。

### ●小崎憲調教師 JRA通算300勝を達成

11月30日(土)の4回中京1日・第6レースではアンシールが1着となり、同馬を管理する小崎憲調教師(栗東)は、現役71人目となるJRA通算300勝(延べ4272頭目)を達成しました。

### ●重賞ウイナー6頭の競走馬登録抹消

2022年東京スポーツ杯2歳S(G II)の勝ち馬ガストリック(牡4歳/美浦・上原博之厩舎/JRA通算5戦2勝)、2023年サンケイスポーツ杯阪神牝馬S(G II)の勝ち馬サウンドビバーチェ(牝5歳/栗東・高柳大輔厩舎/JRA通算15戦3勝)、2023年農林水産大臣賞典関東オークス(川崎・Jpn II)の勝ち馬パライバトルマリン(牝4歳/美浦・林徹厩舎/JRA通算7戦2勝・地方3戦1勝)、2022年アルゼンチン共和国杯(G II)の勝ち馬ブレイクアップ(牡6歳/栗東・森田直行厩舎/JRA通算21戦5勝・海外3戦0勝)、2021年京成杯オータムハンデキャップ(G III)の勝ち馬カテドラル(牡8歳/栗東・池添学厩舎/JRA通算37戦4勝)、2022年京成杯オータムハンデキャップ(G III)の勝ち馬ファルコニア(牡7歳/美浦・和田正一郎厩舎/JRA通算30戦8勝)は、10月10日(木)までに競走馬登録を抹消されました。サウンドビバーチェとパライバトルマリンは繁殖馬、ブレイクアップは種牡馬、ガストリック、カテドラル、ファルコニアは乗馬となる予定です。

## ★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

### ●ネクストスター園田は無敗馬オケマル【各地の主要2歳重賞】

ネクストスター園田(10月24日、園田、1400<sup>米</sup>)は、5番手から追いつけたオケマル(牡、父ニューイヤーズデイ)がゴール寸前で前を捉え、単勝1.4倍の支持に応じてデビュー以来3連勝。ネクストスター笠松(10月24日、笠松、1400<sup>米</sup>)は、5番人気の北海道からの転入馬ブリストタイム(牡、父コパノリッキー)が逃げ切り勝ち。ネクストスター高知(10月27日、高知、1400<sup>米</sup>)は、先手を取った単勝1.4倍で圧倒の人気のドライブアウェイ(牝、父フォーワールドライブ)が2着馬を3馬身引き離し、無傷の4連勝を達成しました。ネクストスター名古屋(10月29日、名古屋、1500<sup>米</sup>)は、逃げた6番人気の伏兵エレインアスティ(牝、父ルヴァンスレーヴ)が後続を1馬身半差で振り切って重賞初制覇。平和賞(10月30日、船橋、1600<sup>米</sup>)は、中団から差を詰めた単勝1.7倍で断然人気の北海道からの遠征馬ウィルオレオール(牡、父レッドベルジュール)が、ゴール前で差し切り勝ちを収めています。

### ●ナチュラルライズらが参戦、12月11日の全日本2歳優駿(川崎)

全日本2歳優駿(Jpn I、12月11日、川崎、1600<sup>米</sup>)は、カトレアS勝ち馬ナチュラルライズ、エーデルワイス賞を制したミリアッドラヴの無敗馬2頭に、兵庫ジュニアグランプリの覇者ハッピーマンを加えた3頭の争いとなるのが濃厚と考えられ、コパノヴィンセント、グランジョルノ、ソルジャーフィールド(北海道)が続きます。

## ★海外競馬ニュース 文・秋山響★

### ●G1ハリウッドダービー～フォーミダブルマンがG1初制覇

現地11月30日にアメリカ・カリフォルニア州のデルマー競馬場で行われたG1ハリウッドダービー(3歳、芝1800<sup>米</sup>)はU.リスボリ騎手を背に先行したフォーミダブルマン(牡3歳、父シテリオブライト、M.マッカーシー厩舎)が直線で抜け出して3/4馬身差で優勝しました。フォーミダブルマンは今年7月に行われたL(リステッド)のオーシャンサイドS(芝1600<sup>米</sup>)を制して3勝目を挙げると、続く9月の前走G2デルマーダービー(芝1800<sup>米</sup>)も勝って重賞初制覇。これで3連勝でのG1初制覇となりました。

### ●G1メイトリアークS～セイクリッドウィッシュが重賞初制覇

上記G1ハリウッドダービーの翌日に同じデルマー競馬場で行われたG1メイトリアークS(3歳上牝、芝1600<sup>米</sup>)はJ.ヴェラスケス騎手とのコンビで先行したセイクリッドウィッシュ(牝4歳、父ノットディスタイン、G.ウィーバー厩舎)が残り100<sup>米</sup>で抜け出すと、最後はG1・3勝のジーナロマンティカの追い上げをクビ差しりぞけて優勝しました。セイクリッドウィッシュは3歳夏にダートのG1CCAオークスで2着に入りましたが、秋には芝路線に転向。7度目の芝重賞挑戦での重賞初制覇となりました。